

第2期白石町観光振興基本計画

令和8年3月

白 石 町

目 次

はじめに

第1章 観光の現状

- 1-1 人口ビジョン.....3
- 1-2 来訪者の現状.....7
- 1-3 現状の整理.....8

第2章 観光の課題・役割

- 2-1 現状の課題.....9
- 2-2 観光の役割.....11

第3章 観光振興基本計画

- 3-1 基本方針・基本施策.....12
- 3-2 成果指標と達成目標.....16

資 料.....17

- ◆観光に活用可能な地域資源
- ◆アンケート分析結果
- ◆白石町観光振興基本計画策定委員会の開催・協議事項

はじめに

計画の趣旨

白石町は、杵島山地とそのすそ野にひらけた豊かな自然風土と長い歴史をもつ町として発展を続けています。平成 17 年には白石町・福富町・有明町が合併し、新たに白石町としてスタートし、白石町総合計画では「人と大地がうるおい輝く豊穡のまち」を基本理念として掲げ、計画的なまちづくりをすすめています。

令和元年 6 月 1 日には「道の駅しろいし」がオープンし、地域資源を活用した観光拠点として重要な役割を果たしています。また、令和 6 年 11 月 21 日には「しろいし町観光協会」が設立され、観光振興の体制がさらに強化されました。

これらの取り組みにより、観光を取り巻く環境整備は進んできましたが、白石町として一体的に進める観光による地域振興の方針や、交流人口・関係人口をどのように拡大していくのかといった中長期的な方向性は、いまだ十分に整理されていない状況にあります。

今後は、町内に点在する地域資源を効果的に結びつけ、町内外の人々が白石町に触れ、関わる機会を広げていくことが求められています。また、観光を通じて地域住民の地域への誇りや愛着を高め、観光で地域を盛り上げる体制づくりを進めていくことも重要です。

そこで、これまでに整備された観光拠点や組織体制を活かしながら、今後目指すべき観光の方向性を明確にし、基本方針・基本施策を示すため、「第 2 期白石町観光振興基本計画」を策定します。

※本計画での「観光振興」とは、観光の力を活用して地域振興を図ることです。

計画の位置付け

白石町観光振興基本計画は、第 4 次白石町総合計画の個別計画として位置付けられるもので、その他の個別計画との連携を図るものです。

計画の期間

白石町観光振興基本計画は、令和 8 年度から令和 11 年度までの 4 年間とします。

なお、白石町総合計画の見直しや今後の社会経済情勢の変化、観光振興関連の事業進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行っていきます。

第1章 観光の現状

1-1 人口ビジョン

白石町は、豊かな自然、農業、歴史、文化といった地域資源に恵まれ、これらの魅力を活かした観光は、町のにぎわいや地域活性化に貢献する重要な要素の一つとなっています。

一方で、人口減少が進行する中、地域の持続性を確保するためには、定住人口の回復だけでなく、交流人口や関係人口の拡大など、多様な視点からの取組が求められています。観光はそうした取組を支える有効な手段のひとつであり、町の魅力を広く伝え、町内外の人々のつながりを生む契機として、その役割がますます重要になっています。

1 人口減少の現状

白石町では、昭和30年代から人口減少が始まっており、2020年の国勢調査では22,051人となっています。将来的には、2050年に12,558人まで減少するという推計も出ており、人口減少は深刻な局面を迎えています。

(出典：白石町人口ビジョン令和7年3月 改訂 P.2、図1)

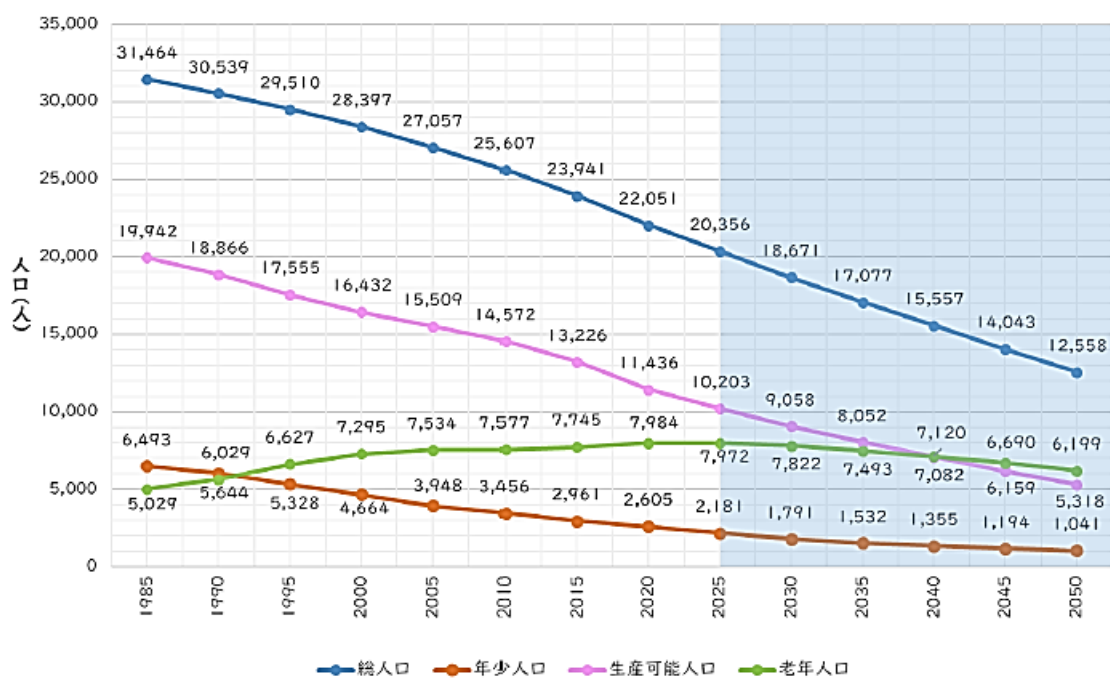


図1 総人口、年齢3区分の推移

出典：2020年までは国勢調査結果、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計

2 人口構造の変化と今後の課題

特に、生産年齢人口の減少や若年層の町外流出が顕著であり、定住人口の減少とともに地域の活力低下が懸念されています。また、高齢化も急速に進行しており、2065年には高齢化率が50%を超えると予測され、町の持続性が大きな課題となっています。

(出典：白石町人口ビジョン P.14、図12)

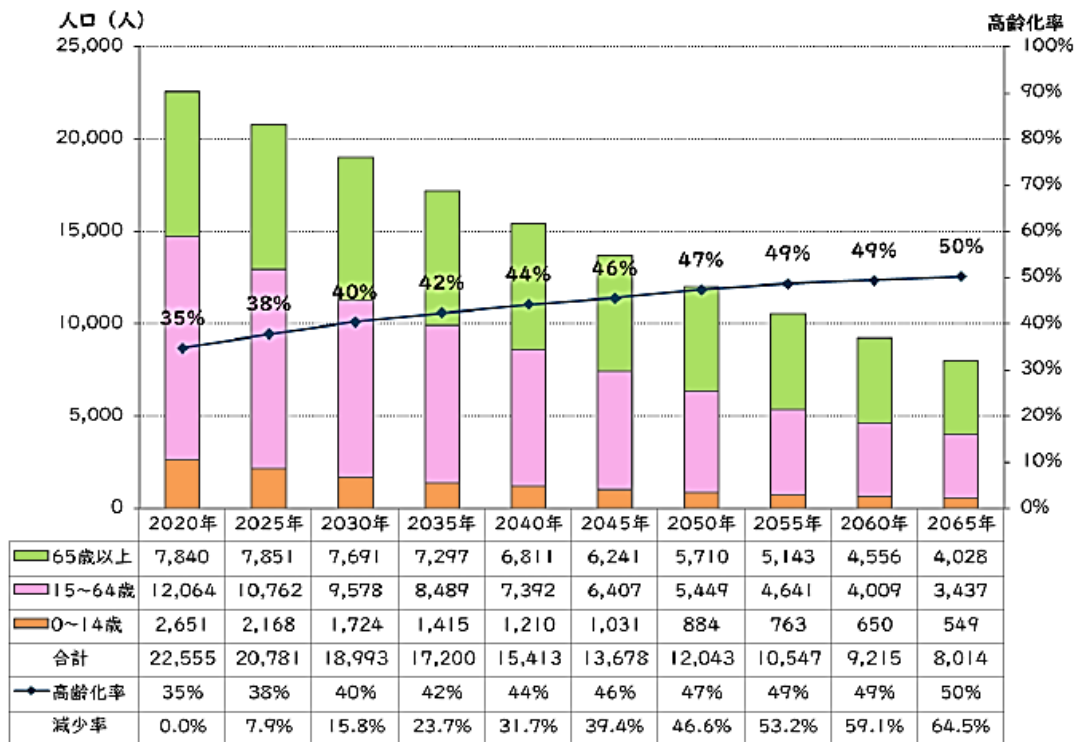


図12 白石町の人口の現状推移と高齢化率

推計：地域活性化センター

※ 図1、図12のうち、2020年の人口が異なるのは、図1は国勢調査結果、図12は住民基本台帳のデータを使用しているためです。

3 人口ビジョンの目標と方向性

白石町の現状のまま推移すれば、地域コミュニティや生活サービスの維持が困難になり、町の持続性そのものが危ぶまれることになります。

こうした状況を受けて、白石町では人口ビジョンにおいて「毎年100人を取り戻す」という目標を掲げています。この目標は、定住人口の回復にとどまらず、交流人口や関係人口の拡大を通じて町の活気や魅力を再構築し、移住人口の獲得を促進することで、持続可能な発展を促すための取り組みです。

(出典：白石町人口ビジョン P.15、図13)

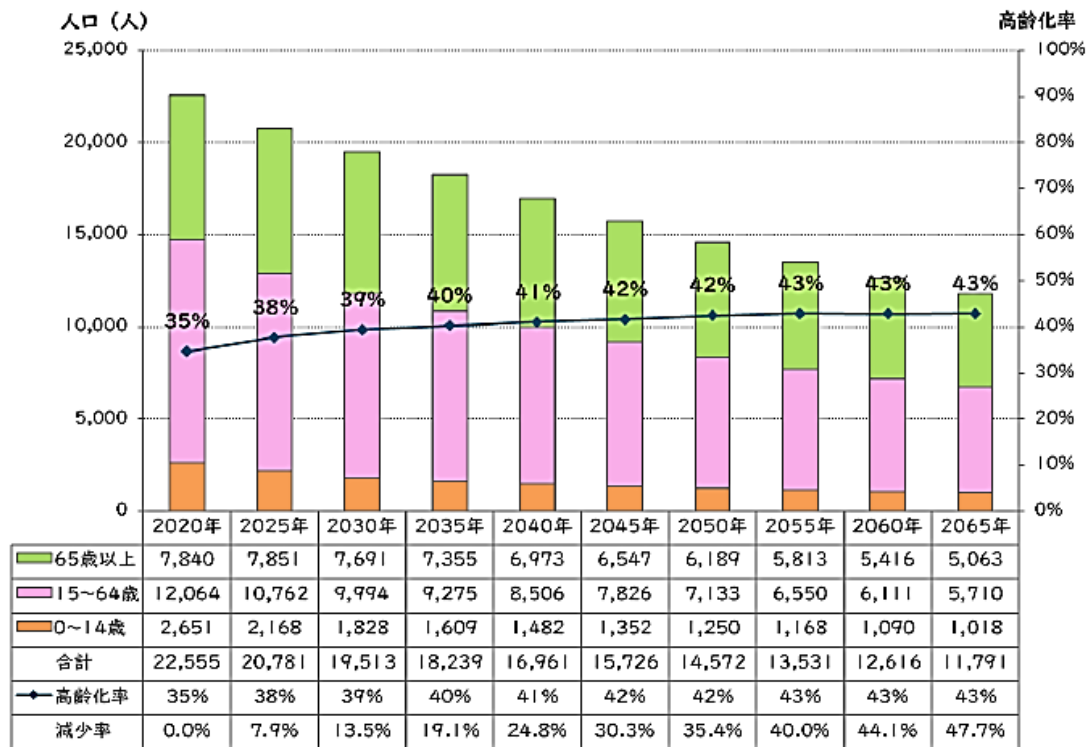


図13 毎年100人を取り戻した場合の人口推移と
高齢化率のシミュレーション（白石町）

推計：地域活性化センター

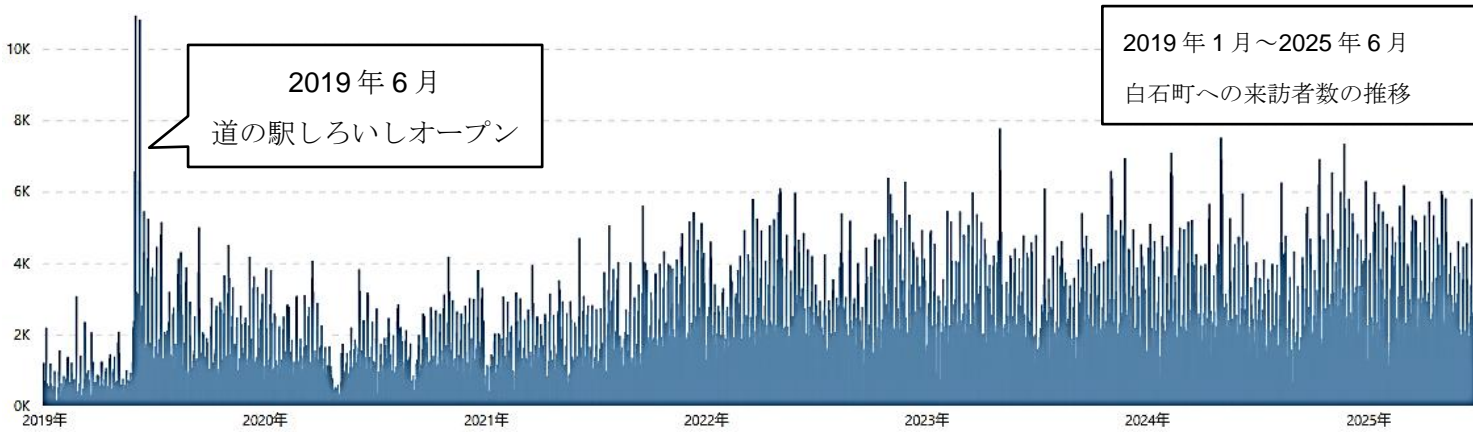
4 観光の役割と連携の重要性

人口ビジョンの目標達成において、観光は重要な役割を果たします。観光は、白石町の魅力を町外の人々に伝える入り口となり、「訪れる」ことをきっかけに、「知る」「関わる」「住む」といった段階的に町とのつながりを深めるきっかけとなります。観光を通じて、町と多くの人々が関わることで、地域との持続的なつながりを築く可能性が広がります。

今後は、観光を単なる経済活動だけでなく、人口増加や町の魅力発信の手段としても活用していくことが大切です。観光を通じて交流人口や関係人口を増やし、定住を促進することで、町の持続可能な発展に繋げていくことが期待されています。

1-2 来訪者の現状

白石町への観光客数は「道の駅しろいし」のオープンを契機に大幅に増加しました。しかし、道の駅しろいしへの来訪は多い一方で、町内の他のスポットへの訪問には広がりが見られず、周遊につながりにくい状況が続いています。



出典：おでかけウォッチャー（公財）九州経済調査協会

前述の状況を踏まえ、来訪者の行動や白石町に対する認知・関心を把握するため、道の駅しろいしにおいて、町内在住者と町外来訪者を対象としたアンケート調査を実施しました。

（アンケート実施概要）

- ・実施日 2025年8月16日（土）
- ・実施場所 道の駅しろいし
- ・実施人数 500人（内訳 町内在住者37名、町外来訪者463名）
- ・対象年齢 中学生以上
- ・回答方法 WEBフォームまたはアンケート用紙

※ アンケート分析結果はP21～27に掲載。

1-3 現状の整理

道の駅しろいしで実施したアンケート調査の結果から、町外来訪者の行動傾向や認知状況を基に、現状の整理を行いました。

1 来訪者の集中

道の駅しろいしが最大の集客拠点となっており、白石町を訪れる来訪者の多くが利用しています。一方で、道の駅しろいし以外の場所を訪れた来訪者は少数にとどまっています。

2 利用目的

道の駅しろいしを訪れた目的としては「買い物」が最も多く、特産品の評価が高い結果となりました（65%が「満足以上」）。

一方、「ドライブ途中の立ち寄り」や「トイレ休憩」などの通過型利用については「普通」とする回答が多く、評価が伸び悩んでいます。

3 観光資源の認知度

特産物の認知率は76%と高い一方で、特産物以外の観光資源の認知率は20%以下と低い状況です。

4 来訪者の居住地

来訪者は佐賀市や福岡県など近隣地域からの比率が高い傾向にあります。

県内からの来訪者は短時間の利用（買い物・休憩）が中心で、県外からの来訪者は観光や体験への関心が比較的高いという特徴が見られます。

第2章 観光の課題・役割

2-1 現状の課題

現状の整理を行い、白石町への来訪は道の駅しろいしに大きく集中している一方で、町内全体の周遊や観光資源の認知には広がりが見られず、町内での滞在や体験につながりにくい状況が明らかになりました。

これらを踏まえ、観光振興を進める上での課題を以下に整理します。

1 町内周遊の不足

道の駅以外の観光資源の認知度が低く、町内での周遊が進んでいません。結果として、観光消費の拡大にも十分つながっていない状況です。また、道の駅と商店街が離れているため、周遊を促す仕組みづくりが必要です。

2 道の駅しろいしの利用目的の限定化

道の駅しろいしの利用は「買い物・休憩」が中心で、観光や体験活動への参加が少ない状況です。来訪者の興味関心を広げるため、グルメマップや映えスポットなどの案内を設置し、特に若者向けのアクティビティを提案することが重要です。

3 体験・滞在コンテンツの不足

来訪者からは、農業体験、子ども向け体験、飲食施設の充実などのニーズがありますが、現状では十分に応えられていません。また、歴史的な建物の老朽化や施設管理者の高齢化も進んでいます。

さらに、観光ガイドの人員不足を補うため、QRコードを活用した説明書きやスタンプラリーなどを導入し、観光客が自分で町内を巡ることができる仕組みづくりが必要です。外国人との共催イベントなど、体験型コンテンツの充実も求められています。

加えて、宿泊施設が不足しており、滞在を伴う観光の受け入れが難しい状況です。

4 情報発信・誘客力の弱さ

町内資源の認知度向上や周遊促進に向けた情報発信が十分ではなく、世代別・ターゲット層別の適切な発信が不足しています。特にSNSを活用した若年層へのアプローチが必要です。

また、景観資源や見どころを積極的にPRし、町の目玉となる観光地として発信力を高めていく必要があります。

5 関係人口への展開不足

来訪者との接点は一定程度あるものの、リピーターや応援者として継続的に関わってもらう仕組みは十分に整っていません。

また、町民自身が地域の魅力を再認識し、観光振興に協働的に関わる意識を高めていくことも課題となっています。

今後は、観光を通じて町への愛着や郷土愛を育み、町民と来訪者の双方が継続的に関わる「関係人口」としての仕組みづくりを進めていくことが求められます。

2-2 観光の役割

白石町には、自然や歴史、文化、人の温かさといった、この町ならではの魅力があります。観光は、これらの地域資源を訪れる人に伝えるとともに、町の活力や人のつながりを生み出す重要な役割を担っています。観光によって人の流れが生まれることで地域経済が潤い、町民の誇りや郷土愛の醸成にもつながります。また、町と関わる人を増やすことは、将来的な関係人口の拡大にも寄与します。

こうした観点から、白石町が観光振興を進める上で大切にしたい観光の役割を以下に整理します。

1 地域経済を潤す

観光を通じて白石町の魅力を知ってもらい、来訪者が農産物・特産品・飲食・体験などに消費を行うことで、新たな経済循環が生まれます。観光消費は町の産業や雇用を支える力となり、結果として町民の暮らしを潤し、地域経済の活性化につながります。

2 町の魅力を発信・継承する

白石町が持つ景観、歴史、文化財、伝統芸能、農産物などの地域資源を、観光を通じて広く発信することで、町民の誇りや文化の継承につながります。

また、目玉となる観光地や地域資源の認知度を高めることは、町全体の魅力向上にも寄与します。

3 観光をきっかけに交流人口・関係人口を増やす

観光は白石町を知る「入口」となり、町への興味や関心を高める役割を持っています。来訪者と地域住民の交流が生まれることで、短期的な観光客（交流人口）がイベント参加や再訪を通じて町との関わりを深め、継続的に関わる関係人口へと発展します。

こうしたつながりが広がることは、将来的な移住・定住のきっかけにもなり、町の持続的な活性化につながります。

第3章 観光振興基本計画

3-1 基本方針

これまでの現状整理から、白石町の観光は道の駅しろいしが主要な来訪拠点となっており、町内全体への周遊や地域資源の活用が十分に進んでいないことが明らかになりました。また、情報発信やコンテンツの不足、関係人口の形成が進みにくいなど、観光振興を進める上での課題も多く見られます。

一方で、観光は地域経済を潤し、町の魅力を広く伝え、交流人口や関係人口を拡大する重要な手段でもあります。

こうした現状と観光の役割を踏まえ、白石町では交流人口や関係人口の拡大を目指して、今後の観光振興の方向性として3つの基本方針を整理しました。

これらの方針は、白石町、しろいし町観光協会、関係団体などが参画する協議の場において検討、共有し、関係者が連携して推進していきます。

基本方針1 『地域資源を活用し、観光消費を促します』

白石町が有する自然、農業、歴史、文化などの多様な地域資源を観光資源として磨き上げ、観光を通じて地域内での消費や交流を促し、経済の活性化につなげていきます。しろいし町観光協会と連携し、白石町ならではの特産品や体験コンテンツ、魅力的なブランドの構築を通じて、観光客が町に滞在し、消費を通じて地域と関わる機会を広げることで、地域経済に好循環を生み出すことを目指します。

施策区分	施策の方向性
① 地域資源を活かした商品・イベントの展開	<ul style="list-style-type: none">・特産物や地域資源を活かした商品開発やイベントを企画し、町の個性と魅力をわかりやすく伝えます。・季節性や地域文化を取り入れた取り組みを推進し、地域経済の活性化につなげます。

<p>② 地域資源を活かしたプログラムの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や関係団体と連携し、季節ごとの農作業や自然観察、歴史文化を学べるプログラムを充実させ、白石町の自然・農業・文化を実感できる機会を増やします。 ・地元商店や飲食店と協力し、観光客が地域の特産品や文化を体験できるプログラムを実施し、地域の魅力を感じてもらいます。
<p>③ 地域経済への観光消費の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光による消費が地域経済に還元されるような仕組みを検討します。 ・町内の商店や飲食店、観光施設との連携を深め、観光消費が町内全体に広がるように促進します。
<p>④ 宿泊施設の多様化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の宿泊施設の選択肢を多様化し、訪れる人々に柔軟な宿泊手段を提供する方向で検討を進めます。 ・観光客の多様なニーズに応えるため、宿泊施設がある地域との広域連携を強化していきます。
<p>⑤ 観光施設の維持管理と環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光施設の維持管理に努め、清潔で快適な環境を整えることで、来訪者が安心して過ごせるようにし、満足度向上を目指します。 ・施設の必要性や活用方法を再評価し、資源をより効果的に活用し、観光環境の質の向上を目指します。

基本方針2 『町内周遊を促進します』

白石町では、道の駅しろいしに多くの来訪者が訪れているものの、町内の他のスポットへの周遊には十分つながっていない状況があります。

こうした課題を踏まえ、しろいし町観光協会と連携しながら、町内観光地間の移動に関する案内環境の充実や周遊を促す情報発信の強化、町民との連携による受け入れ体制づくりに取り組みます。町内の観光資源を効果的につなぎ、町の魅力を一体的に体感できる環境を整えることで、滞在時間や満足度の向上を図り、来訪者との継続的な交流や町に対する愛着の醸成を目指します。

施策区分	施策の方向性
① 観光周遊と回遊性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・町内スポット間の移動や導線を改善し、町全体を回遊しやすくする環境を整えます。 ・道の駅しろいしを起点とした周遊ルートづくりや商店街・公共空間の活用を進め、来訪者の滞在時間と回遊性を高めます。
② 周遊を支える移動のしやすさとアクセスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自家用車、公共交通のいずれでも町内を移動しやすくなるよう、観光地間の移動に関する情報提供や案内環境の充実を図ります。 ・肥前白石駅等を活用した施策を実施し、来訪者が駅を起点に町内を周遊できる仕組みづくりを行います。
③ 周遊を促す情報提供と案内環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・観光マップや看板、デジタル案内等を整備し、町内を巡る際に分かりやすさと利便性を高めます。
④ 町民と連携した受け入れ体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・町民や事業者、関係団体と連携し、観光客が安心して町内を巡れるよう、案内や体験プログラムへの協力などを通じて、地域全体で観光客を迎える仕組みづくりを進めます。

基本方針3 『情報発信を強化します』

白石町の観光を広く知ってもらうためには、町外と町内の両方に向けた情報発信が重要です。町外には、SNS やウェブ、パンフレットなどを使って町の魅力を分かりやすく伝え、来訪につなげます。町内には、観光に関する情報を共有し、町民が地域の魅力を再発見し、自ら発信に関わるような機会を広げていきます。

これらの取り組みは、しろいし町観光協会と連携し、情報発信体制の一層の強化を図りながら進めていきます。

施策区分	施策の方向性
① 情報発信とPR体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS、ウェブ、紙媒体など多様な手段で、ターゲットに合わせた伝達を行い、情報の到達率を高めます。 ・ 観光情報を整理し、スマートフォンを活用した案内体制を整備するなど、必要な情報にアクセスしやすい環境をつくります。
② 町民向けの情報共有と意識醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町民が観光の取り組みや地域資源の魅力を理解しやすい情報提供を行います。 ・ 町民が観光に関心を持ち、地域の魅力を再認識できるような機会をつくりま
③ 町民による発信と参加の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町民が自らの視点で町の魅力を発信する取り組みを支援します。 ・ 観光に関わるイベントや活動への町民の参加を促し、町民が観光の担い手となる環境を整えます。
④ 観光ブランドの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源を体系的に整理し、「白石町らしさ」を伝えるブランドコンセプトを構築します。 ・ 町の魅力や温かさが感じられるような工夫を取り入れ、ブランド価値の向上につながる取組を整えます。

3-2 成果指標と達成目標

本計画では、観光振興活動の進捗と成果を測定するために、以下の指標を用いて成果を評価します。それぞれの指標に対して具体的な数値目標を設定し、白石町の観光振興と地域活性化に向けた着実な進展を目指していきます。

指標	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
観光入込客数 ※1	人	908,267	1,150,000
白石町内来訪者数 ※2	人	1,067,071	1,360,000
道の駅来訪者数 ※3	人	842,079	1,070,000
町内周遊率 ※4	%	117.7	130
町内観光消費指数 ※5	%	100	110

※1 観光入込客数とは、町内スポット（町が採用する人流データモニタリングツールの中であらかじめ選定された町内の施設等）に訪れた町民以外の来訪者数のこと。

※2 白石町内来訪者数とは、町内スポットに訪れた町民を含む来訪者数のこと。

※3 道の駅来訪者数とは、道の駅しろいしの駐車場を含む敷地内全てへの町民を含む来訪者数のこと。

※4 町内周遊率とは、来訪者が町内でどの程度スポットを巡回しているかを示す行動指標であり、同一来訪者による複数スポットへの訪問が周遊率の上昇につながる。

(計算式) 「町内スポットへの延べ訪問数 (町民含む) / 町内スポットへの実来訪者数 (町民含む)」

(例1) 100人中全員が一日で町内スポットを1か所訪れた場合

$$100 \text{ 人} \times 1 \text{ か所} / 100 \text{ 人} = 1.0 (=100.0\%)$$

(例2) 100人中全員が一日で町内スポット2か所訪れた場合

$$100 \text{ 人} \times 2 \text{ か所} / 100 \text{ 人} = 2.0 (=200.0\%)$$

※5 町内観光消費指数とは、観光入込客が町内でどのくらい消費しているか、観光における経済効果を示す指標のこと。

白石町における町内観光消費指数の算出方法については、集計開始年度の町内観光消費額を100.0%とし、年度毎に集計し比較していく数値を町内観光消費指数という。

町内観光消費額の算出方法については、町内の協力店舗から収集した売上データを、人流データモニタリングツールによる町民：町外民の割合を掛け合わせ、各協力店舗の町外民分売上データを合算し、平均した額をいう。

□ 資料

◆ 観光に活用可能な地域資源

①文化財

観光資源として活用が見込まれる指定文化財を以下に整理しました。

■文化財一覧（白石町指定文化財一覧 - 白石町教育委員会）

種別	番号	名称	概要等
文化財	①	川崎善重夫妻の墓誌・川崎利右衛門の墓誌（法泉寺）	町重要文化財—歴史資料
	②	妻山神社一の鳥居・二の鳥居	町重要文化財—建造物
	③	妻山古墳群 4号墳	県史跡
	④	船野山古墳群 1号墳（通称、かぶと塚）	町史跡
	⑤	道祖谷古墳	県史跡
	⑥	野柄古墳群 1号墳	町史跡
	⑦	水堂安福寺の宝塔（通称、重盛の塔）	町重要文化財—建造物
	⑧	陽興寺の慶長二年銘万部塔	町重要文化財—建造物
	⑨	陽興寺の須古鍋島家御霊屋	町史跡
	⑩	石造肥前鳥居 天正十三年の銘あり	県重要文化財—建造物
	⑪	吉祥天曼荼羅（玉泉坊-県立博物館に寄託）	町重要文化財—絵画
	⑫	稲佐神社の楠 2株	県天然記念物
	⑬	稲佐神社文書 1 1 通（1巻）	町重要文化財—古文書
	⑭	木造十一面観音菩薩坐像（福泉禅寺）	県重要文化財—彫刻
	⑮	鉄牛円心像（福泉禅寺）	町重要文化財—彫刻
	⑯	観音菩薩坐像（福泉禅寺）	町重要文化財—彫刻
	⑰	幽霊図（福泉禅寺）	町重要文化財—絵画
	⑱	鱒口（東楽寺）	県重要文化財—工芸品
	⑲	石造六地藏	町重要文化財—建造物
	⑳	木造神像 3 軀（彦嶋神社-県立博物館に寄託）	県重要文化財—彫刻
	㉑	海童神社の楠	県天然記念物
	㉒	龍王崎古墳群（古今の森公園）	県史跡
	㉓	龍王崎古墳群出土遺物（ふれあい郷自有館）	県重要文化財—考古資料
	㉔	聖観音立像（深浦西分観音堂）	町重要文化財—彫刻
	㉕	龍神社の石造「豊玉姫之尊」祠	町重要文化財—建造物
	㉖	カササギ生息地（町全域）	国天然記念物
	㉗	木造阿弥陀如来立像附像内納入品	県重要文化財—彫刻

②遺跡・歴史的建造物

観光資源として活用が見込まれる遺跡・歴史的建造物を以下に整理しました。

■遺跡・歴史的建造物一覧（おもしろいしー白石町商工観光課発行）

種別	番号	名称	概要等
遺跡・遺構・歴史的建造物	①	室島	かつての海岸線の跡が残る
	②	放生池跡	長崎街道沿いの湧水跡
	③	海童神社	海上交通の安全祈願信仰
	④	清水跡	長崎街道沿いの湧水跡
	⑤	古渡跡	塩田川の渡し場跡
	⑥	錦江のイボ地藏	地域信仰のお地藏さん
	⑦	稲佐神社一の鳥居	稲佐神社の巨大な石の鳥居
	⑧	八坂神社	佐賀藩主鍋島勝茂ゆかりの地
	⑨	六角川船渡し場跡周辺	六角川の渡し場跡
	⑩	六角川蛇行堤防跡	河川堤防の跡
	⑪	猫塚（秀林寺）	猫大明神の祠
	⑫	蟹築籠（かにつきごもり）	弘法大師がカニを退治した場
	⑬	海蔵寺	弘法大師がマムシを退治した赤土
	⑭	吉村天満宮	嬉野茶開祖吉村新兵衛ゆかりの地
	⑮	鷹屋神社	佐賀藩主鍋島勝茂ゆかりの地
	⑯	潮塞観音	堤防決壊を塞いだ観音堂
	⑰	須古城跡	県内最大級の戦国時代の平山城
	⑱	島津城跡	南北朝時代の平山城
	⑲	杵島城跡	須古城の支城
	⑳	小島城跡	須古城の支城
	㉑	法泉寺	龍造寺隆信ゆかりの地
	㉒	妻山神社	10月19日流鏝馬の行事
	㉓	福泉禅寺	平安時代の歌人和泉式部の生誕伝説で有名
	㉔	水堂さん	病を治す霊水との言い伝えのあるお寺
	㉕	縫ノ池	平成13年に復活した湧水池

③景観資源・施設・伝統文化等

観光資源として活用が見込まれる景観資源・施設・伝統等を以下に整理しました。

■景観資源・施設・伝統文化等一覧（おもしろいしー白石町商工観光課発行）

種別	番号	名称	概要等
街並み	①	高町宿	長崎街道の宿場町跡
	②	六角宿	長崎街道の宿場町跡
	③	長崎脇街道	小田宿（江北町）から六角宿、竜王峠、鹿島を經由して諫早へ至るルート
観光施設	④	道の駅しろいし	道の駅、特産品販売所
	⑤	しろいし特産物直売所	特産品販売所
	⑥	菜海ありあけ	特産品販売所
	⑦	ふくどみマイランド公園	有明海沿岸のレクリエーションの場
	⑧	新有明漁港、水辺公園	大きな干満差による長い栈橋、広い干潟
	⑨	白石中央公園	遊具、テニスコート等
	⑩	有明スカイパークふれあい郷	ホール、プール、トレーニング室等
	⑪	むつごろうカントリークラブ	河川敷のゴルフ場
	⑫	古今の森公園	龍王崎古墳群や大楠のある公園
	⑬	歌垣公園	日本三大歌垣の地、つつじ7万本（4月）
	⑭	肥前犬山城展望所	有明海を隔てた福岡、熊本への遠望
	⑮	桜の里展望台	600本の桜があり県の景観百選に選出
伝統行事	⑯	歌垣の郷ロードレース大会（3月）	日本陸連公認コースでのロードレース大会
	⑰	水堂出水法要 （旧暦4月15日～7月15日）	無病息災に効き目があると言われている霊水
	⑱	八坂神社夏祭（7月13日）	八坂神社の夏祭りで山車が町中を練り歩く
	⑲	海童神社八朔祭（10月1日）	海童神社の秋大祭で面浮立や獅子舞の奉納
	⑳	妻山神社おくんち（10月19日）	五穀豊穣の秋祭り、流鏝馬
	㉑	稲佐神社おくんち（10月19日）	五穀豊穣の秋祭り、流鏝馬
	㉒	しろいしぺったんこ祭（11月）	秋の収穫を祝うイベント
	㉓	稲佐神社のお火たき祭（12月）	稲佐神社の新年の安全を祈る祭り
郷土料理・特産品	㉔	須古寿し	祭や祝い事の時に食べる郷土料理
	㉕	煮じゃあ	おくんちの時に食べる郷土料理
	㉖	しろいしてんぺ	煮大豆にてんぺ菌を混ぜて発酵させた食べ物
	㉗	まえうみもん（有明海で獲れる魚介類）	むつごろう、はぜ、わらすば、くちぞこ等
	㉘	農産物	レンコン、タマネギ、苺、米、璃の雫等
	㉙	海産物	佐賀海苔
	㉚	畜産物	肉牛

④干拓堤防

観光資源として活用が見込まれる干拓堤防を以下に整理しました。

■干拓堤防一覧（おもしろいしー白石町商工観光課発行）

番号	名称	概要等
①	鐘松土居跡	1572～1592年築造
②	櫓土居跡	1596～1643年築造
③	五千間土居跡	江戸時代初期築造の干拓堤防跡
④	六千間土居跡	江戸時代中期（1781年～）築造の干拓堤防跡
⑤	旧有明海岸堤防跡	干拓堤防跡
⑥	旧有明海岸堤防跡（2線堤）	戦後完成した干拓堤防跡
⑦	有明海岸堤防（1線堤）	現在の干拓堤防

◆ 観光アンケート分析結果

来訪者の行動や白石町に対する認知・関心を把握するため、道の駅しろいしにおいて、町内在住者と町外来訪者を対象としたアンケート調査を実施しました。

● アンケート実施概要

- ・実施日 2025年8月16日（土）
- ・実施場所 道の駅しろいし
- ・実施人数 500人（内訳 町内在住者37名、町外来訪者463名）
- ・対象年齢 中学生以上
- ・回答方法 WEBフォームまたはアンケート用紙

● 町内在住者向けアンケート分析結果

1. 回答概要

【回答数】37件（町内全域から回答）

2. 白石町の観光全体の満足度・期待度について

【満足度】

- ・非常に満足：2件（5.4%）
- ・満足：6件（16.2%）
- ・ふつう：21件（56.8%）
- ・やや不満：6件（16.2%）
- ・不満：2件（5.4%）

→ 5割以上が「ふつう」と回答しており、特別な感情を持っていない。

【期待度】

- ・とても期待：7件（18.9%）
- ・期待：19件（51.4%）
- ・あまり期待していない：8件（21.6%）
- ・全く期待していない：3件（8.1%）

→ 約7割が「期待している」と回答しており、将来の観光振興への期待感が高い。

【満足・好意的な理由】

- ・ 美味しい特産物
- ・ 美味しいものが沢山、自然いっぱいだからみんなに来てもらいたい
- ・ とても良いところです。自然となんでも美味しい！

【期待している理由】

- ・ 観光地が増えることを期待している
- ・ これからもっと楽しい観光スポットを期待しています
- ・ 観光客が増えることで活性化するから
- ・ 沿岸道路が通りもっと活性化してほしい
- ・ 人口が増えてほしい、企業がきてほしい

【課題・不満を伴う理由】

- ・ PR が不十分
- ・ 地元の意識向上が期待・満足できていないこと
- ・ マイランド、道の駅、ナフコなどを活用した催し・企画が欲しい
- ・ あまり発展してほしくない、住みにくくなる

- ・ 町民は「現状に満足していない」が「将来には期待している」構図が見える。
・ 満足層は「自然・特産物・雰囲気」を評価し、期待層は「観光地増加・活性化・人口増」を望む声が多い。
・ 一方でPR 不足や具体的な企画不足への不満も見られ、改善が必要。

3. 観光が町にもたらす影響について

【回答】

- ・ 地域が活性化する：28 件（75.7%）
- ・ 町外の人との交流が増える：11 件（29.7%）
- ・ 地域経済にプラスになる：9 件（24.3%）
- ・ ごみや混雑などの問題が心配：4 件（10.8%）
- ・ 見慣れない人が増えると不安：1 件（2.7%）
- ・ 特に何も感じていない：1 件（2.7%）
- ・ その他：1 件（2.7%）

- ・ 回答者の4分の3が「地域が活性化する」と期待しており、最もポジティブに

受け止められている。

- ・「交流」「経済効果」についても3割前後が期待しており、観光を町の将来にプラスと考える声が多数。
- ・一方で「ごみ・混雑などの問題」や「見慣れない人への不安」も少数ながら存在し、環境整備や安心感の確保が必要。

5. まとめ

- ・ 現状の満足度は低く、5割以上が「ふつう」と回答している。
- ・ 一方で、約7割が「観光振興に期待」と答えており、将来への期待感は大きい。
- ・ 強みとして「特産物・自然・雰囲気」が評価されている。
- ・ 課題は「PR不足」「企画の弱さ」「住民意識の向上」。
- ・ 観光は「地域活性化・経済効果・交流促進」に寄与すると認識されている。
- ・ 同時に「ごみ・混雑」「住みにくさ」などへの懸念も存在する。
- ・ 今後は「資源の磨き上げ」「発信力強化」「住民と来訪者の交流促進」が重要。

● 町外在住者向けアンケート分析結果

1. 回答概要

【回答数】 回答総数：463 件

内訳 - 佐賀県内：136 件

- 佐賀県外：327 件

【佐賀県内の特徴】

- ・ 佐賀市が過半数（6割超）
- ・ 西部地域（武雄市・伊万里市・鹿島市・嬉野市）からの来訪も多い。
- ・ その他、小城市・神埼市など県内各地から幅広く回答があった。

【県外の特徴】

- ・ 福岡県からの来訪が多数を占める。
- ・ 長崎・熊本など九州近隣県からの来訪も一定数ある。
- ・ 遠方（関西・関東など）からの回答は少数。

→ 来訪者は九州圏内に集中しており、近距離観光圏の特性が強い。

2. 白石町の観光全体の満足度の詳細分析

【全体分布】

- ・ 非常に満足：68 件（14.7%）
- ・ 満足：209 件（45.1%）
- ・ ふつう：182 件（39.3%）
- ・ やや不満：3 件（0.6%）
- ・ 不満：1 件（0.2%）

→ 全体の約6割が「満足・非常に満足」だが、約4割が「ふつう」と回答しており、観光資源の訴求力不足が課題。

【居住地別】

- ・ 佐賀県内：満足・非常に満足 64%（87/136）
- ・ 県外：満足・非常に満足 58%（190/327）

→ 県外客は「ふつう」評価が目立ち、滞在体験が浅い。県内客は比較的高評価が多い。

【来訪目的別】

- ・ 買い物：65%が満足以上。農産物・特産品の評価は高い。
- ・ ドライブ途中：満足以上 55%、ふつう 45%。短時間利用で評価が分かれる。
- ・ トイレ休憩：満足以上 57%、ふつう 41%。利便性は評価されるが観光要素には繋がっていない。

→ 買い物利用は安定した満足度を確保しているが、通過型利用は「ふつう」が多く、評価が伸び悩む。

【自由記述による満足・不満理由】

- ・ 満足層：農産物が新鮮で美味しい、自然が豊か、食事や買い物が便利
- ・ ふつう／不満層：観光スポットを知らない、道の駅以外の魅力が見えない、PR不足、特産品以外の体験が乏しい

→ 満足度向上には「買い物以外の観光体験の創出」と「町全体の情報発信」が不可欠。

3. 白石町の観光資源に対する認知度の詳細分析

【全体傾向】

- ・ 特産物（レンコン・玉ねぎ）：76%と突出
- ・ 干潟・自然・農業：13～19%
- ・ 歴史スポット・祭りイベント：5%未満

→ 「白石町＝特産物の町」というイメージが強い。

【居住地別】

- ・ 県内：特産物認知率 90%以上。自然・農業・干潟なども認知率が高い。
- ・ 県外：特産物認知率は 72%と高いものの、特産物以外（自然・干潟・歴史・イベント）は 20%未満。歴史やイベントは 5%以下。

→ ・ 県内では「特産物＋自然・農業」という幅広いイメージで白石町が認識されている。

- ・ 県外は特産物中心の認知に偏っている。

【年代別】

- ・ 若年層（10～30代）：特産物以外はほとんど知らない。
- ・ 中高年層（40～60代）：農業や干潟の認知が比較的厚い。
- ・ 高齢層（70代以上）：自然や歴史の認知も一定程度ある。

【自由記述との照合】

- ・ 満足層：「農産物が有名」「干潟や自然が豊か」
- ・ ふつう／不満層：「特産物以外が知られていない」「観光資源が活かされていない」

→ 認知度の差がそのまま満足度の差に直結している。

4. 白石町の観光に対するニーズの詳細分析

【若年層（10～30代）の傾向】

- ・ 整備面では「休憩場所」「交通アクセスの改善」「トイレ」「看板や案内表示板」など、観光の基盤となる受入環境への要望が多い。
- ・ 「SNS映えスポット」「グルメマップ」「スタンプラリー」といった、楽しさや映え要素への関心が強く、友人やSNSを通じた共有意識がうかがえる。

【中年層（40～60代）の傾向】

- ・ 整備面では「看板や案内表示板」「休憩場所」「交通アクセス改善」「トイレ」が特に多く、家族連れやグループで訪れやすい環境を重視している。
- ・ 「グルメマップ」「観光マップ」「観光ガイド」に加え、「イベント情報の発信」「インフルエンサーによる紹介」「体験プログラム」など、情報・体験の充実を求める声が目立つ。
- ・ 回答数も最も多く、町外来訪者の中心的な層であることが確認できる。

【高年層（70代以上）の傾向】

- ・ 整備面では「休憩場所」「看板や案内表示板」が中心で、観光中の安心感やわかりやすさを求めている。
- ・ あったらしいなでは「観光マップ」「観光ガイド」「花畑」など、落ち着いて観光を楽しむための案内や景観づくりを重視している。

→ 以上から、白石町の観光振興においては、年代別に異なるニーズを踏まえた施策が必要であり、基盤整備と情報発信を共通基盤としつつ、各年代に応じたコンテンツづくりやPRを進めることが重要である。

5. まとめ

- ・ 満足度は全体で6割が高評価だが、4割が「ふつう」で観光資源の発信不足が課題。
- ・ タビマエでは情報発信強化が重要。
- ・ タビナカでは体験プログラムや周遊施策が不足。
- ・ タビアトでは再訪意欲を高める工夫が必要。
- ・ 世代別や同行者毎のターゲット層に合ったコンテンツ作りが必要。
- ・ 認知度分析から、特産物以外の資源発信を強化することで全体の満足度向上が見込まれるため、まずは白石町について知ってもらうことが重要。

◆ 白石町観光振興基本計画策定委員会の開催・協議事項

回数	開催日	協議内容等
第1回	令和7年 7月30日	○委嘱状交付 ○白石町観光振興基本計画の協議 (1)白石町観光振興基本計画策定の趣旨と背景 (2)第1期白石町観光振興基本計画について (3)現在の白石町の現状と課題 (4)今後の白石町の観光に関する環境要因
第2回	令和7年 10月9日	○道の駅しろいしでの観光アンケート調査(8月16日実施) ○白石町観光振興基本計画の協議 (1)観光アンケート分析結果 (2)現状の整理 (3)現状の課題 (4)観光の役割
第3回	令和7年 11月27日	○白石町観光振興基本計画の協議 (1)第2回協議会後の修正箇所の確認 (2)基本方針、基本施策について
第4回	令和8年 1月29日	○白石町観光振興基本計画の協議 (1)第2期白石町観光振興基本計画素案の確認 (2)パブリックコメントについて
第5回	令和8年 3月16日	○白石町観光振興基本計画の完成、推進体制の協議 (1)パブリックコメントの結果について (2)第2期白石町観光振興基本計画完成版配布 (3)今後の推進体制について

第2期白石町観光振興基本計画

令和8年3月

発行：白石町商工観光課

〒849-1192 佐賀県杵島郡白石町大字福田 1247-1

電話 0952-84-7123